

令和 6 年度
社会福祉法人美土里会

事業報告書

1. 社会福祉法人美土里会 1-1~15
2. 特別養護老人ホーム美土里荘 2-1~11
3. 美土里荘短期入所生活介護事業所・ 3-1~2
4. 美土里荘デイサービスセンター梓・ 4-1~5
5. 在宅介護支援センター櫟 5-1~2
6. 美土里荘訪問介護事業所 6-1~2
7. 美土里荘グループホーム櫟 7-1~5

〒039-2504 青森県上北郡七戸町字寒水 70-17

電話：0176-62-2761(代表)

FAX：0176-62-2762

URL：<http://midorikai-gr.or.jp>

社 会 福 祉 法 人
美 土 里 会

《 令和 6 年度 事業報告 》

令和 6 年度はまさに激動の 1 年となりました。

介護報酬が改定され第 9 期介護保険計画期間に入りました。改定率は+1.59%でしたがそのうち 0.98%は介護職員の処遇改善充当分であり、サービス本体の単価や加算部分の改定率は実質+0.61%程度でした。多くのサービスの基本単価は微増しましたが、年 4%とも言われる全国的な物価高騰幅に対応しているものとは言えず、加算の算定を念頭に事業運営を考えなければマイナス改定と言っても過言ではない内容でした。

それを踏まえ、特別養護老人ホーム美土里荘を中心にサービスの在り方を全面的に見直し、効率化及び生産性の向上を図ることを第一として業務を推進しました。同時に今まで提供していたサービスの点検とコンプライアンスに則った会議・研修・記録体制の整備、業務見直し並びに必要な人員を確保した上での新たな加算算定の体制構築なども行い、高品質サービスの提供と業務効率化・生産性向上の両立を追求しました。新しい取組も数多く職員の負担は大きいものがありましたが、一丸となって本当に頑張ってくれました。令和 7 年度以降も同様の取組を続け、組織体制の更なるブラッシュアップを図る必要があると痛感しています。

また、報酬が唯一マイナス改定となった訪問介護事業所は令和 6 年度末をもって事業所休止の届出を県に提出いたしました。訪問介護事業は令和 4 年度の介護事業経営実態調査の収益率を基に報酬額が決定しましたが、その後の社会情勢の変動を全く考慮しておらず到底受け入れられる改定ではありません。しかしながら今後の法人全体の収支と事業の展開を考えた時、事業を休止することが妥当であると結論づけました。苦渋の決断ではありましたが、七戸町や町内の居宅介護支援事業所から「美土里荘さんの訪問介護がなくなるのは残念だ」という声も多くいただき、平成 8 年 10 月からの 28 年 6 ヶ月、七戸町民に受け入れられそして評価していただいたことを実感しました。長きにわたり事業を支えてくださった関係者の皆さまに改めて感謝の意を表します。

そして令和 6 年 12 月 23 日、インドネシアからの特定技能生 3 名を受け入れることができました。20 前後の彼女たちが日本という国の介護という仕事を選んでくれたことに感謝をしつつ、確たる支援・教育体制のもと可能な限り長く勤められるよう、そして介護技術・知識のレベルアップを図り 1 人前の戦力になれるよう育てます。

国・厚生労働省は ICT 機器を活用した生産性の向上並びに業務効率化を推進する姿勢を鮮明にしています。今後は生産性の上がらない、または非効率的な事業所はその在り方を見直しつつ、一方で必要とされる介護・福祉サービスは新たな展開を目指すなど、大胆かつ繊細な組織経営が望まれます。人材（ヒト）・物品（モノ）・資金（カネ）・時間（トキ）という有限なリソース（資源）を『どこに配分し最大限の利益を得るか』を徹底的に追求し、実践する姿勢が欠かせません。

社会福祉法人美土里会は今年で 38 年目を迎えます。今までの歴史と経験に新たな知見と価値観を加え、今後も地域に根ざした介護・福祉サービス事業が展開できるよう尽力して参ります。

令和 7 年 6 月

理事長 盛田 薫

《地域・社会貢献事業》

No.	実施月日	区分	内容	貢献時間 (時間)	職員名
1	5月20日	環境	国道394号線沿い清掃活動	2.0	18名
2	9月18日・ 19日	教育	青森県立七戸高等学校 介護員養成研修事業(介護職員初任者研修)講師	6.0	盛田
3	11月6日	教育	三沢市立第一中学校 職業人講話 講師	2.0	盛田
4	12月13日	教育	七戸町立城南小学校 キャリア教育出前授業 講師	2.0	盛田
5	1月31日	教育	十和田市立北園小学校 「夢にむかって」職業講話 講師	2.0	盛田
6	2月7日	教育	十和田市立高清水小学校 「夢を語る会」職業講話 講師	2.0	盛田

《法人行事》

No.	実施月日	行事名	内容
1	—	美土里荘 フェスティバル	新型コロナウイルス感染症のため中止

《防災訓練実施状況》

実施日	対象事業所	内容
6月26日	特別養護老人ホーム グループホーム	・ 夜間の火災想定 ・ 特養・グループホーム合同訓練 ・ 模擬緊急通報訓練 ・ 模擬避難誘導訓練
6月29日	デイサービス 訪問介護事業所	・ 地震想定 ・ 地震発生時対応・模擬消火訓練 ・ 模擬緊急通報訓練 ・ 避難誘導訓練
9月25日	デイサービス 訪問介護事業所	・ 火災想定 ・ 模擬消火訓練 ・ 模擬緊急通報訓練 ・ 模擬避難誘導訓練
10月23日	特別養護老人ホーム	・ 夜間の火災想定 ・ 特養・グループホーム合同訓練 ・ 模擬緊急通報訓練 ・ 模擬避難誘導訓練

《研修・セミナー参加一覧》

No.	研修日	研修名	参加者
1	4月11日	労務研修会	2名
2	4月27日	これからの福祉経営を考える研修会	1名
3	5月20日	令和6年度第一回総会 社福向けセミナー	1名
4	5月21日	令和6年度総会 理事会/役員向けセミナー	1名
5	6月7日	社会福祉法人運営の基本対策セミナー	1名
6	6月7日	令和6年度青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会・通常総会・セミナー・役員懇親会	1名
7	6月15日～16日	第46回地域包括ケア事業研究会懇親会	1名
8	6月22日	生理学的動きを活用した介護技術の実践	2名
9	7月17日	青森県老人福祉施設大会	3名
10	7月21日～ (計4日)	2024年成年後見人材育成研修	1名
11	7月22日～ (計4日)	令和6年度青森県認知症介護実践者研修	1名
12	7月25日～26日	令和6年度青森県喀痰吸引等研修事業 基本研修(演習)	1名
13	9月17日～ (計15日)	令和6年度介護福祉士会ファーストステップ研修	1名
14	9月17日～ (計4日)	平成6年度認知症介護実践者研修 第4回	1名
15	9月13日	令和6年度東北ブロック老人福祉施設大会・研究会	3名
16	9月22日	青森県社会福祉士会2024年度基礎研修Ⅲ ファシリテーター	1名
17	9月27日	令和6年度青森県主任介護支援専門員スキルアップ研修「みんなで考えよう！課題分析標準項目を実践するために」	1名
18	10月8日	令和6年度青森県介護支援専門員及び介護サービス提供者合同会議 アセスメントとモニタリングは多職種協働で！	1名
19	10月13日	青森県社会福祉士会生涯研修センター運営委員会	1名
20	10月23日	適切なケアマネジメント実践研修会	3名
21	10月25日	令和6年度整備管理者講習会	1名
22	10月1日～ (計4日)	平成6年度認知症介護実践者研修 第4回	1名
23	10月31日	介護テクノロジー展&実践事例から学ぶ業務改善セミナー	1名
24	11月9日	第12回 青森県地域連携実務者研修	1名
25	11月24日	2024年度秋田県社会福祉士会名簿登録研修	1名
26	11月27日	青森県介護支援専門員研修 ケアマネジメントの標準化について～適切なケアマネジメント手法を施設内チームで実践するために～	1名
27	12月4日	令和6年度上十三地域難病対策地域協議会	1名
28	12月13日	令和6年度青森県介護支援専門員スキルアップ研修「介護支援専門員に求められるコミュニケーション能力」	1名
29	1月9日～	介護支援専門員実務研修	1名
30	1月28日	令和6年度上十三老人福祉協会研修会	3名
31	2月1日～2日	2024年度基礎研修講師養成研修	1名
32	2月8日	権利擁護センター ぱあとなあ青森 マニュアル説明会、ぱあとなあ青森フォローアップ研修会	1名
33	2月15日	青森県社会福祉士会実践(研究)報告会 参加のため	1名
34	2月27日	令和6年度青森県介護支援専門員 高齢者権利擁護研修	1名

《公的会議・職能団体会合出席》

	会議日	内容	場所	出席数
1	4月24日	青森県老人福祉協会令和6年度第1回理事会	県民福祉プラザ	1
2	4月26日	上北地方教育・福祉事務組合 認定審査会	上北地方教育・福祉事務組合	3
3	5月14日	第1回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
4	5月14日	令和7年度地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
5	5月17日	令和6年度福祉科2,3学年 介護実習事前打ち合わせ	東奥学園高等学校	1
6	5月21日	膝森稲荷神社、馬頭観音堂例大祭	膝森稲荷神社	1
7	5月31日	定額減税説明会	十和田税務署	1
8	6月11日	第2回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
9	6月11日	第2回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
10	6月24日	老年青森支部役員総会	オンライン	1
11	6月26日	(福)宏仁会評議委員会	アップルパレス青森	1
12	6月28日	令和6年度上十三地区老人福祉協会第1回役員会正副会長会議	野辺地町中央公民館	1
13	7月16日	第2回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
14	7月16日	第2回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
15	7月23日	第1回七戸町介護保険運営協議会及び地域包括支援センター運営協議会	天間林保健センター	1
16	8月23日	青森県地域包括支援センター協議会会長就任祝賀会	ホテル青森	1
17	8月28日	第2回七戸町生活支援ハウス入所判定委員会	天間林保健センター	1
18	9月17日	第4回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
19	9月17日	第4回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
20	10月14日	全国地域包括在宅介護支援協会会長就任祝賀会	八戸パークホテル	1
21	11月12日	第4回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
22	11月12日	第4回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
23	11月19日	第3回七戸町生活支援ハウス入所判定会議	天間林保健センター	1
24	11月25日	第1回総務委員会	県民福祉プラザ 多目的室B	1
25	12月17日	第17回七戸町社会福祉大会	七戸中央公民館	3
26	12月23日	第4回七戸町生活支援ハウス入所判定会議	天間林保健センター	1
27	12月23日	令和6年度東奥学園高等学校介護実習総括	東奥学園高等学校	1
28	1月14日	第6回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	1
29	1月14日	第6回七戸町令和6年度地域ケア個別会議	天間林保健センター	1
30	1月31日	令和6年度上十三圏域在宅医療・介護連携推進事業市町村担当者会議	JA十和田おいらせ本店	1
31	2月18日	第4回七戸町地域ケア個別会議、主任介護支援専門員連絡会	天間林保健センター	2
32	2月27日	第5回七戸町生活支援ハウス入所判定会議	天間林保健センター	1
33	3月5日	青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会	県民福祉プラザ	1
34	3月12日	青森県社会福祉会リーガルソーシャルワーク部会	青森刑務所	1

《法人委員会実施状況》

今年度（令和 6 年度）より、事業所横断的にメンバーを集めた『法人委員会』を設け一体的に活動を推進することで、生産性の向上・業務効率化及び省力化を図った。

設置・活動した法人委員会は下記の通り。

- (1) 虐待防止対策委員会
- (2) 身体拘束適正化委員会
- (3) 感染症・食中毒予防対策委員会
- (4) 生産性向上・業務改善委員会
- (5) 事故発生防止対策委員会
- (6) 広報委員会
- (7) 衛生委員会
- (8) 苦情対応委員会

さらに、下記 3 つの委員会は特養独自の要素が強いため『特養内委員会』として設置した。
（特別養護老人ホーム美土里荘のページで活動報告する）

- (1) 褥瘡対策委員会
- (2) 口腔衛生・医療的ケア委員会
- (3) アクティビティ委員会

(1) 虐待防止対策委員会

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	4月25日	・年間計画検討
2	5月26日	・不適切ケア自己チェックリスト作成、実施、集計
3	6月27日	・不適切ケア発見時フローチャート確認、作成 ・内部研修について
4	7月26日	・内部研修振り返り・自己チェックリスト実施・フローチャート再確認
5	8月22日	・各部署ごとにチェックリスト結果報告・内部研修について ・目安箱設置についての検討
6	9月26日	・内部研修について内容、検討、資料確認 役割分担
7	10月24日	・上半期反省 ・下半期取り組みたい事検討
8	11月28日	・目安箱の在り方 ・接遇について
9	12月26日	・全職員対象の接遇目安箱運用について
10	1月25日	・目安箱へ投函する原案見直しと実施日程について
11	2月28日	・委員会メンバーにて県内でおきた虐待事案をもとに勉強会開催 ・目安箱の総評
12	3月27日	・R6 年度委員会活動の振り返り

② 活動報告・主な取り組み

- ・ 内部研修実施 第1回 不適切ケアとグレーゾーンについて
第2回 アンガーマネジメントについて
- ・ 不適切ケアフローチャート作成
- ・ 不適切ケア自己チェックリスト作成、配布
- ・ 目安箱設置
- ・ 全職員対象の接遇目安箱作成実施、各部署へ結果報告

③ 反省・来年度の課題

- ・ 内部研修を通じて不適切ケアが虐待に繋がるという事を周知できた。
- ・ 目安箱や自己チェックリストを実施し自分のケア振り返り意識付けする事ができた

(2) 身体拘束適正化委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	6月5日	・マニュアル、指針整備、その他必要事項等の確認 ・年間計画作成 ・園内研修について ・身体拘束者の解除の検討
2	7月3日	・園内研修について ・身体拘束者の解除の検討
3	8月8日	・身体拘束者の解除の検討
4	9月4日	・11月園内研修について ・身体拘束者の解除の検討
5	10月5日	・11月園内研修について ・身体拘束者の解除の検討
6	11月6日	・11月園内研修について ・身体拘束者の解除の検討
7	12月7日	・園内研修の反省 ・身体拘束者の解除の検討
8	1月7日	・身体拘束者の解除の検討及び記録の確認
9	2月6日	・身体拘束者の解除の検討及び記録の確認
10	3月5日	・身体拘束者の解除の検討及び記録の確認

② 活動報告・主な取組み

- ・身体拘束等の代替案、拘束解除に向けての検討。検討した結果を介護職員、その他従業員に周知徹底を図る。
- ・指針整備。研修立案、計画、実施。

③ 反省・来年度への課題

- ・拘束記録の漏れが多く見られていた為、再度身体拘束記録の重要性について介護職員に周知をし、再確認を行った結果、記録の抜けが殆ど見られなくなった。
- ・身体拘束解除に向けて、一定の拘束者しか代替案を提案する事が出来なかった。その他の拘束者の代替案等も、話し合っていく必要がある。

(3) 感染症・食中毒予防対策委員会

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	4月10日	・年間活動計画 ・4月～7月までに特養が基準となるBCP作成 ・10月全体会議にてBCPの研修
2	7月10日	・各事業所でBCPを作成 ・9月内部研修について(内容検討)
3	9月2日	・感染症・食中毒予防対策委員会の対策について ・延期になった勉強会をいつにするか
4	10月9日	・各部署のBCPのチェック ・2月勉強会シュミレーション
5	1月8日	・2月の勉強会について ・不参加者の課題について

② 活動報告・主な取り組み

- ・4月～7月までに特養が基準となるBCP作成となっていたが10月までに作成しチェックを行った。
- ・感染症に係る訓練・研修の実施(1回目 フェイスシールドとガウンの着脱・ゾーニングについて)
- ・(2回目 初動対応についての机上訓練)
- ・

③ 反省・来年度への課題

- ・BCPの作成を作成したがみんなに周知がうまく出来なかった。
- ・感染対策時の物品の場所をどこにするか、在庫確認を誰が行うのか明確にする。
- ・初動対応についてより具体的で分かりやすい対応手順を作成していきたい。

(4) 生産性向上・業務改善委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	4月5日	委員会の役割と意義、委員紹介
2	4月22日	委員会並びに加算概要計画・説明 今後の取り組み、介護ソフトでの記録統一
3	5月20日	会議・打合せの在り方アンケート集計 事業所別改善提案、利用者アンケート
4	6月24日	事業所別改善提案
5	7月22日	事業所別改善提案
6	8月26日	事業所別改善提案、特養トロミサーバーの導入 勤怠管理の見直し・再周知
7	9月24日	トロミサーバー導入振り返り GH食事メニューの効率化
8	10月28日	利用者アンケート実施② 半年の進捗確認
9	11月25日	新・LIFEフィードバックの注意点 生産性向上推進体制加算報告システムの報告確認
10	12月23日	(特定技能生3名の受入日のため実施せず)
11	1月27日	新・LIFEフィードバックの活用方法検討 来年度の委員会体制案
12	2月25日	来年度の組織体制案 人事考課・キャリアパスの取り組み
13	3月24日	人事考課・キャリアパスへの取り組み 青森県事業所認証評価制度への登録検討

② 活動報告・主な取り組み

- ・ 各事業所の課題点や改善点を吸い上げ、実践可能なものを少しずつ行うことができた。
- ・ また LIFE が新しくなったことに伴い記録やフィードバックの活用方法の見直しを行った。
- ・ 実際に省力可能な危機の導入を行ったほか、利用者アンケートを実施し生産性の向上がどこまで利用者の QOL の向上に資したかの検討も行った。

③ 反省・来年度への課題

- ・ 令和 6 年度介護報酬改定に伴い新設した委員会であり、国の基準や指針等を確認しながらの手探りの運営となった。まず特養で実施・テストし、それを他事業所に普及させるかたちを採ったが、普及が伝達が上手く行かなかった点が課題である。
- ・ 人・物・金・時といったリソース（資源）は有限であり、また慢性的な人材難に悩まされる介護業界では生産性の向上、効率化、省力化が欠かせない。法人全体での意識付けと“まず実践してみる、”という行動力の強化が必須である。
- ・ 来年度は人事考課やキャリアパス、青森県事業所認証評価制度への登録を視野に、更なる生産性向上を図りたい。

(5) 介護事故発生・再発防止対策委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	4月18日	・年間活動計画 ・年2回の内部研修について ・事故報告書について
2	5月16日	・新たな事故報告書の作成方法確認 ・第1回内部研修内容について
3	6月20日	・内部研修役割決め ・事故報告書、ヒヤリハット報告について
4	7月18日	・事故報告書について ・特養の事故統計、分析結果 ・特養の事故改善策の周知徹底について
5	8月15日	・事故報告書の書き方についての勉強会実施について ・特養ヒヤリハットの取り組みについて
6	9月19日	・上半期の発生事故、ヒヤリハット集計結果 ・事故の境界線について
7	10月17日	・特養、GHのヒヤリハット一覧表確認 ・第2回内部研修内容と役割決め ・特養における事故報告書の記録勉強会実施について
8	11月21日	・第2回内部研修について ・GHにおける事故報告書の記録勉強会実施について ・特養における事故報告書記録勉強会での提案事項について
9	12月19日	・内部研修の反省 ・特養の事故報告書作成について ・特定技能実習生の事故発見時について
10	1月16日	・夜間事故発生時のフローチャート確認 ・ヒヤリハット件数について ・事故対策の振り返りについて
11	2月20日	・夜間事故発生時の必要物品の確認
12	3月21日	・今年度の反省と来年度に向けて

② 活動報告・主な取り組み

- ・年2回内部研修実施（第1回：事故原因と予防の講義、第2回：危険予知トレーニングのグループワーク）
- ・最新の事故報告書への移行
- ・事故報告、ヒヤリハット報告の統計、分析
- ・1勤務1人1ヒヤリハットの取り組みを実施
- ・事故報告書についての記録勉強会の実施（特養、GH、事務職員）
- ・事故の境界線の見直し
- ・夜間事故発生時の対応フローチャート作成、必要物品購入

③ 反省・来年度への課題

- ・特養、GH共に居室での転倒事故が多かった。特養は来年度から事故対策の振り返りを実施していきたい。
- ・特養、GHで実施している1勤務1人1ヒヤリハットは継続する。介助者要因でのヒヤリハット、事故を減らしていきたい。

(6) 広報委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・実施内容
第 1 回	4 月 16 日	前年度引継ぎ、年間計画、広報誌発行スケジュール、88 号企画
第 2 回	7 月 16 日	88 号印刷、89 号企画
第 3 回	10 月 15 日	89 号印刷、90 号企画
第 4 回	1 月 21 日	90 号印刷、91 号企画 (R7 年度第 1 回発行予定)

② はんの木だよりの発行状況

号数	発行日	主な内容	発行部数
88 号	7 月 16 日	辞令交付式、各事業所行事・レク、職員紹介	280 部
89 号	10 月 16 日	敬老会、外出行事、レク、職員コラム、職員紹介	280 部
90 号	1 月 21 日	季節行事、特定技能実習生紹介、職員コラム、職員紹介	280 部
91 号(予定)	4 月 22 日	R7 年度辞令交付式、各事業所行事、職員コラム、職員紹介	280 部

③ 令和 6 年度活動のまとめ

- ・ 今年度は、3ヶ月ごとに広報誌『はんの木だよりの発行することができて良かった。
- ・ 社会福祉法人の情報公開・透明化の観点からも、ホームページや SNS を活用した情報発信を推進していきたい
- ・ ホームページもまだまだ軌道に乗っているとは言えない。メンバーが更新できる体制を作り、迅速な更新、気軽な話題での更新を心がけ情報発信に努めたい
- ・ 来年度は、ホームページ刷新に着手したい

(7) 衛生委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	4月6日	・委員会メンバー紹介 ・衛生委員会の意義と役割 ・現在行っている衛生関連対策と今後の活動予定
2	5月3日	・感染症発生状況 ・職員健康診断、メンタルヘルスチェックの予定 ・衛生管理者試験日程 ・職員喫煙の実態について
3	6月8日	・衛生教育に係る外部社労士からのハラスメント研修の企画検討 ・メンタルヘルスチェック対象者の拡大
4	7月5日	・職場内巡視(特養) ・ハラスメント研修会の企画検討
5	9月9日	・職場内巡視(デイ・訪問・グループホーム)
6	10月25日	・職場内巡視の結果共有 ・ストレスチェック結果報告 ・2023年事業所診断結果の共有、改善策検討 ・衛生管理計画の見直し
7	12月6日	・ワクチン接種状況の確認 ・感染症発生状況確認 ・5S活動推進ポスターの作成
8	1月10日	・感染症発生状況の確認 ・5S活動推進ポスターの配布・活用
9	2月7日	・感染症発生状況の確認
10	3月7日	・5S活動に伴う事業所内巡視

② 活動報告・主な取り組み

- ・ ハラスメントに係る研修の実施（講師：特定社会保険労務士 石戸 大 氏）
8月8日 管理職向けハラスメント研修
8月19日 一般職員向け研修①
8月30日 一般職員向け研修②
- ・ 毎回の衛生講話実施による衛生意識の涵養

③ 反省・来年度への課題

- ・ 職場内巡視を2回に分けて行い、各事業所の状況を確認・共有することができた。来年度は指摘された点を改善できるような体制作りをしたい。
- ・ 衛生管理者資格所持者が少ないため、将来のことを考慮し資格取得を推進する必要がある。

(8) 苦情対応委員会 事業報告

④ 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
		実施なし

⑤ 活動報告・主な取組み

- ・ 各事業所で解決しきれない苦情に対応するために随時開催委員会として設置した。
- ・ 一方で、該当する苦情が事業所からなかったため委員会の開催は行わなかった。

⑥ 反省・来年度への課題

- ・ 来年度は、重大苦情の有無に関わらず委員会を定期開催し、各事業所共通の苦情・相談受付様式及び記録方法の統一、苦情・相談内容の共有等を図り、全事業所で苦情を迅速に解決できるための体制を築きたい。
- ・ またマナー・接遇やコンプライアンスなどに係る研修を実施し、苦情の発生を抑制できるよう職員の啓発活動に取り組みたい。
- ・ 苦情解決規程、及び苦情解決第三者委員の見直し、苦情処理体制を再構築したい。

《福祉有償運送サービス実施状況》

＜短期入所生活介護＞

距離	単価 (円)	利用月												合計 (人)	収入額 (円)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
迎車料金	500	5	2	2	3	6	1	4	2	2	3		2	32	16,000
～ 2km	370	1							1					2	740
3km ～ 5km	630		1		1	1	1	2	1	2	3		1	13	8,190
6km ～ 10km	1,260	6	7	8	8	7	4	3	5	5	2	3	4	62	78,120
11km ～ 15km	1,890	1		1		1	1	3	6	3				16	30,240
16km ～ 20km	2,520													0	0
21km ～ 25km	3,150	2												2	6,300
26km ～ 30km	3,780	3	1	2	3	5	1	4	2	2	2		2	27	102,060
31km ～ 35km	4,410							1						1	4,410
36km ～ 40km	5,040		1			1					1			3	15,120
41km ～ 45km	5,670													0	0
46km ～ 50km	6,300													0	0
51km ～ 55km	6,930													0	0
56km ～ 60km	7,560													0	0
86km ～ 90km	11,340													0	0
合計		13	10	11	12	15	7	13	15	12	8	3	7	126	245,180

- ・ 事業所利用者別に福祉有償運送サービスの利用実績の集計を行った（そのため、次の居宅介護支援事業所の利用者数と重複もあり）。
- ・ 短期入所では、6～10km 及び 26～30km が最も多かった。七戸町内、及び十和田市内の医療機関受診の際に使用するケースがほとんどであった。

＜居宅介護支援事業所＞

距離	単価 (円)	利用月												合計 (人)	収入額 (円)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
迎車料金	500	3	1	2	2	3	4	2	2	2	1	1	0	23	11,500
～ 2km	370	1	0	1	1	4	1	2	4	1	1	0	0	16	5,920
3km ～ 5km	630	1	0	0	1	1	0	6	2	3	3	2	2	21	13,230
6km ～ 10km	1,260	5	4	4	5	4	3	6	7	6	4	3	4	55	69,300
11km ～ 15km	1,890	0	0	0	2	1	0	4	5	2	1	0	0	15	28,350
16km ～ 20km	2,520	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21km ～ 25km	3,150	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3,150
26km ～ 30km	3,780	3	1	2	1	2	3	2	2	2	1	1	0	20	75,600
31km ～ 35km	4,410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36km ～ 40km	5,040	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41km ～ 45km	5,670	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46km ～ 50km	6,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51km ～ 55km	6,930	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
56km ～ 60km	7,560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
86km ～ 90km	11,340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		10	5	7	10	12	8	20	20	14	10	6	6	128	207,050

- ・ 居宅のケアマネジャーが担当している利用者が、有償運送サービスを利用した実績も多かった。主な利用は自宅から通院するケースが目立った。

〈グループホーム櫛〉

距離	単価 (円)	利用月												合計 (人)	収入額 (円)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
迎車料金	500													0	0
～ 2km	370													0	0
3km ～ 5km	630				1				1					2	1,260
6km ～ 10km	1,260			4	6	6	6	8	2	10	15	2	4	63	79,380
11km ～ 15km	1,890			1				2			1			4	7,560
16km ～ 20km	2,520													0	0
21km ～ 25km	3,150						1	1	1	2				5	15,750
26km ～ 30km	3,780			1		1	2	1	4	1	3	2	1	16	60,480
31km ～ 35km	4,410													0	0
36km ～ 40km	5,040													0	0
41km ～ 45km	5,670													0	0
46km ～ 50km	6,300													0	0
51km ～ 55km	6,930													0	0
56km ～ 60km	7,560													0	0
86km ～ 90km	11,340													0	0
合計		0	0	6	7	7	9	12	8	13	19	4	5	90	164,430

- ・ グループホームでの有償運送も稼働し始め、今年度は 90 件の利用があった。ほぼ全てが通院のための利用でありその傾向は他事業所と変わりはない。

〈総括〉

- ・ 令和 7 年度の延べ利用回数と距離数は 295 回・3,160.5km となり、昨年度の実績を上回る利用があった。
- ・ 利用料収入は 529,360 円となり、燃料費を賄いながら福祉サービスを実施できた。
- ・ 一方で、利用者が用務を負えるまで待機する必要があったり、急遽の依頼や 17 時以降の依頼に対応せざるを得ない時もあった。令和 7 年度は有償運送許可の更新の時期でもあるので、そのタイミングで待機料金や時間外送迎料金を設定するなどの対応策を考えていく必要がある。

特別養護老人ホーム 美 土 里 荘

介護老人福祉施設

《年間利用状況》

① 入退所状況

(1) 月別入退所状況

	入所									退所						
	男性	女性	合計	入所前居所						男性	女性	合計	退所理由			
				在宅	医院	老健	短期	GH	有料				看取(施)	看取(医)	長期入院	その他
4月	1		1			1					1	1		1		
5月	1	1	2		1	1				1	1	2	2			
6月		1	1				1				1	1	1			
7月		2	2		2					2	3	5	5			
8月	1	2	3		1				2	1	1	2	2			
9月		2	2	1		1					1	1	1			
10月	2	4	6	1	3	1			1		3	3		3		
11月		2	2		1		1				2	2		2		
12月	1		1			1					2	2		2		
1月		2	2			1		1		3	1	4		4		
2月	1	2	3					1	2		1	1		1		
3月										1		1		1		
合計	7	18	25	2	8	6	2	2	5	8	17	25	11	14	0	0

短期…ショートステイ(美土里荘・他施設) GH…グループホーム 有料…有料老人ホームなど

(2) 通年入退所者数の過去3年比較

(単位：人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入所者数	29	23	25
退所者数	34	21	25

- ・ 退所者数 25 名のうち、施設での看取りは 11 名となった。9 月に協力医療機関より『今後、看取り対応ができない』との申し入れを受けてのもので、以降は入院後して最後を迎える方がほとんどであった。
- ・ 入所者は 25 名で退所者数と同数であった。医療機関・老健・有料老人ホームからの入所が多く、入院をきっかけに状態が低下し在宅での介護が難しくなった方、すでに利用している施設・居住系サービス事業所から転居する例が目立った。

② 経常活動事業収入の過去3年比較

(単位：円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入額(円)	280,054,594	289,859,068	301,329,056
前年度比	97.2%	103.5%	104.0%

- ・ 経常活動収入は昨年度比 104.0%となり、新加算算定が奏功した結果となった。

③ 出身地別入所状況

令和7年3月31日現在

(単位：人)

市町村	男性	女性	合計	割合 (%)
七戸町	11	45	56	83.6%
十和田市	2	4	6	9.0%
三沢市				
東北町	2	3	5	7.5%
野辺地町				
六戸町				
六ヶ所村				
合計	15	52	67	

- ・ 七戸町の利用者が最も多いのは変わらないが、七戸町・十和田市・東北町の3市町に留まっている。広域型施設であるためより広範囲での受入を検討・実施しても良いと思われる。

④ 要介護度認定状況

(1) 月別要介護度別利用者数

(単位：人)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	実利用者数	平均
4月	0	5	17	24	19	65	3.9
5月	0	5	17	25	19	66	3.9
6月	0	4	15	27	20	66	4.0
7月	0	4	13	28	22	67	4.0
8月	1	4	14	26	22	67	4.0
9月	1	2	11	29	24	67	4.1
10月	1	2	11	29	25	68	4.1
11月	1	1	11	28	27	68	4.2
12月	1	1	11	28	27	68	4.2
1月	1	1	12	27	27	68	4.1
2月	0	1	11	29	28	69	4.2
3月	0	1	11	29	28	69	4.2
合計	6	31	154	329	288	808	4.1

(2) 要介護度の過去3年比較

令和4年度	令和5年度	令和6年度
3.9	3.9	4.1

- ・ 月別の要介護度の状況を見ると平均 3.9～4.2 の間で推移しており、近年になくやや幅広い結果となった。11 月からは平均 4.1～4.2 と高くなっており、通年では平均要介護度 4.1 と過去と比較しても高い結果となった。
- ・ 特別養護老人ホームの本質を踏まえ、また安定経営のためにも、来年度は要介護 4-5 の重介護度の方を優先して入所を勧めて行くとともに、サービス利用中の状態変化を鋭敏に捉え、状態に応じた要介護認定区分変更も勧めたい。

⑤ 利用者年齢別表

(1) 年齢分布

※令和7年3月31日現在

(単位：人)

年齢	男性	女性	合計
～64歳以下			0
65歳以上～69歳以下	1	1	2
70歳以上～74歳以下	3	2	5
75歳以上～79歳以下	2	1	3
80歳以上～84歳以下	1	7	8
85歳以上～89歳以下	3	17	20
90歳以上～94歳以下	2	11	13
95歳以上～99歳以下	3	11	14
100歳以上～		2	2
合計	15	52	67
平均年齢(歳)	83.2	89.9	88.3

(2) 平均年齢の過去 3 年比較

(単位：歳)

令和4年度	令和5年度	令和6年度
89.5	88.7	88.3

- ・ 年齢分布をみると、64 歳以下の利用者はおらず全体の平均年齢はやや下降した。女性は 90 歳を割り込み、平均年齢は低下する結果となった。

⑥ 会議・研修実施記録

(1) ケア会議

回数	開催日	主な内容
1	4月24日	今年度方針・事業計画説明 各部門からの報告
2	5月22日	各部門からの報告
3	6月28日	各部門からの報告 トロミサーバー機器導入、特定技能生について
4	7月24日	リーダー・サブリーダーより報告
5	9月25日	LIFE関連加算に係る周知・伝達

例年毎月実施していたケア会議であったが、年度途中から在り方を見直しサブリーダー・介護リーダー会議を主軸に開催し、随時決定事項を周知・伝達する方法に切り替えた。

(2) 介護サブリーダー会議

回数	開催日	主な内容
1	8月11日	業務内容の確認・見直し 利用者ケア内容についての確認 リーダー並びに運営への提案・要望 加算に係る内容確認
2	9月15日	
3	10月17日	
4	11月9日	
5	12月4日	
6	1月10日	
7	2月5日	
8	2月7日	

(3) 介護リーダー会議

回数	開催日	主な内容
1	6月19日	各部門リーダーからの伝達 部門間の情報共有 業務内容の見直し・検討 加算に係る業務の説明・周知 職員指導内容 特定技能生の受入並びに指導方針、面談 利用者の情報伝達・共有
2	7月17日	
3	8月30日	
4	10月23日	
5	11月20日	
6	12月2日	
7	12月18日	
8	1月16日	
9	1月23日	
10	1月28日	
11	2月26日	
12	3月28日	

(4) 特定技能生向けオリエンテーション（採用時研修）

回数	開催日	主な内容
1	12月26日	就労、生活面指導、災害、特養概要、介護保険制度 ケアマネジメント、ショートステイ
2	12月27日	倫理、介護とは、受入体制、看護、委員会、専門職 ハラスメント、栄養管理
3	12月30日	認知症基礎研修受講 OJT指導内容、接遇・マナー
4	1月7日	生活リハビリの必要性、個別機能訓練、介助方法

12月23日にインドネシアからの特定技能生3名を受け入れ、就業に係る法定研修並びに業務に
たり必要なオリエンテーション（採用時研修）を行った。

⑦ 今年度のまとめと来年度に向けて

- 令和6年度は介護報酬改定があった。基本単価は上昇したが、物価高に対応出来る上昇率ではなかつたため安定経営を図るために可能な限りの加算算定を目指した。具体的には年度内に

- ① 個別機能訓練加算 I（12単位/日）
- ② 同 II（20単位/月）
- ③ 同 III（20単位/月）
- ④ 口腔衛生管理加算 II（110単位/月）
- ⑤ 退所時情報提供加算（250単位/回） ※1利用者1回のみ
- ⑥ 医療機関連携推進加算 I（100単位/月） ※令和7年度より50単位/月
- ⑦ 高齢者施設等感染対策向上加算 II（10単位/月）
- ⑧ 生産性向上推進加算 II（10単位/月）
- ⑨ 経口維持加算 I（400単位/月）
- ⑩ 栄養マネジメント強化加算（11単位/日）

の10種類の加算を算定開始することができた。

- 一方で加算額と業務量とのバランスを考慮し、算定を取りやめた加算もあった。
- 令和7年度はサービスの品質向上と安定経営を図るため更なる加算の算定を検討したい。
- 12月23日よりインドネシア出身の特定技能生3名の受入が決定している。指導体制を整え、実習生が十分に成長するとともに一人前の戦力になるよう、支援して行きたい。また、転籍可能な特定技能生であるためより長く安定して当法人で就労できるよう福利厚生面の充実も図りたい。

《特養委員会活動報告》

(1) 医療的ケア・口腔ケア委員会

① 委員会の開催状況

[illegible]

② 活動報告・主な取組み

- ・ 小川麻里歯科医師による日常の口腔ケアについての研修の実施
- ・ 喀痰吸引の手技の確認、スポンジブラシの使用法の確認の研修（書面開催）

③ 反省・来年度への課題

- ・ 喀痰吸引、経管栄養ともに事故なく実施する事ができた。

(2) 褥瘡対策委員会

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	6月19日	・今年度の活動計画 ・個別クッション使用・ポジショニング例 ・マットレスの導入
2	9月13日	・OHスケールに基づいたマットレスの見直し ・マットレス・車イスの適正使用の判断 ・園内研修「褥瘡予防」について検討
3	12月12日	・クッション類の保管方法 ・褥瘡がある利用者の現状把握、発見・処置・対応の流れ
4	3月12日	・クッション・体位交換枕の管理 ・利用者ADL低下時のマットレス変更の流れ

② 活動報告・主な取り組み

- ・3ヶ月に1回開催し、褥瘡がある利用者の把握に努めた。特に機能訓練指導員の助言を得てマットレスや車イスの見直しを行い、予防に努めた。

③ 反省・来年度への課題

- ・褥瘡が発生した利用者に気づくのが遅かった。ADL低下・栄養状態の悪化から褥瘡リスクが高い方だったが初動が遅れてしまった。

来年度は委員会改組により褥瘡委員会は医療的ケア委員会に統合されるが、他職種での連絡調整と対応策の徹底を図り、褥瘡発生の防止に努めたい。

(3) アクティビティ委員会 事業報告

① 委員会の開催状況

回数	開催日	検討・議事内容
1	7月12日	・四季の飾り物の検討、購入 ・利用者誕生日プレゼントの内容精査 ・必要物品収納スペースの購入・制作
2	10月11日	・利用者誕生日プレゼントの再購入 ・体操・アクティビティ活動の内容検討
3	3月14日	・年間行事計画 ・備品確認・整理・購入

② 活動報告・主な取り組み

- ・施設生活が主になっている利用者が少しでも楽しめるよう、四季の飾り物を考えたほか、実施した行事や誕生会の写真を掲示するなどし、取組が可視化できるようにした。

③ 反省・来年度への課題

- ・行事の実施回数が少なかった。2月の豆まき（鬼退治）などは行えたが、充分とは言えなかった。来年度は外出行事や園内行事双方の充実を図りたい。
- ・コロナ禍も終え、外出や交流の制限はほぼなくなっている現状を踏まえ、地域交流の機会も設けたい。

《医務》

① 通院・健診・入退院状況

(1) 科目別通院状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	7	9	3	8	12	10	11	8	16	3	6	6	99
外科(褥瘡)							2	2	2	2	2	2	12
整形外科	2	1	2		2	2	4	3	5	2	2	2	27
脳外		1			1	1							3
精神科	4	1	4	5	6	6	7	6	4	5	6	7	61
皮膚科	2				4	5	4	2	3	2	2	2	26
眼科	1				2				1	1	1		6
耳鼻科													0
その他								1		2	3	2	8
救急外来	2	2		1			2	1	1	1	2	1	13
死亡確認 (看取り)													0
予防接種 目的													0
合計	18	14	9	14	27	24	30	23	32	18	24	22	255

(2) 施設内看取り件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り		2	1	5	2								10
看取り以外 の死亡退所	1					1	3	1	2	2	1	1	12
死亡以外の 退所								1		2			3
退所総数	1	2	1	5	2	1	3	2	2	4	1	1	25

(3) 利用者健康診断・予防接種状況

項 目	実施月	内 容	実施人数		備考
			特養	GH	
健康診断	5月	血液検査、尿検査	60	17	
結核集団検診	7月	胸部X線検査(検診車)	53	17	
結核精査	10月	胸部CT(病院受診)	4	1	結核感染者はなし
新型コロナワクチン接種	11月	病院との調整 ワクチン接種	45	10	
肺炎球菌ワクチン接種	8月	病院との調整 ワクチン接種	0		
インフルエンザワクチン接種	11月～12月	病院との調整 ワクチン接種	52	16	

(4) 職員健康診断・予防接種状況

項 目	実施月	内 容	実施人数				
			特養	GH	DS	訪問	居宅
前期健診・腰痛健診（藤原内科）	8月、9月	病院との調整、結果集計	28	14	8	3	
後期健診・腰痛健診（藤原内科）	3月	病院との調整、結果集計	24	12			
インフルエンザワクチン接種 （七戸内科クリニック）	11月	病院との調整	76				

(5) 病別入退院状況

性別	年齢	病 名	入 院 期 間（※退所日）	入院日数	備 考	退所時の入所期間
男	86	急性肺炎	4月1日 ～ 4月3日	3	3/25～入院合計10日間入院	
女	80	イレウス	4月8日 ～ 4月9日	2	死亡退所	4 年 7 ヶ月 13 日
女	99	重症肺炎	4月24日 ～ 6月13日	51		
女	93	老衰	※ 5月12日	0	施設内看取り	2 年 1 ヶ月 18 日
男	82	老衰	※ 5月16日	0	施設内看取り	0 年 0 ヶ月 28 日
女	99	老衰	※ 6月1日	0	施設内看取り	2 年 3 ヶ月 18 日
男	89	急性冠症候群	5月24日 ～ 6月17日	25		
女	90	老衰	※ 7月3日	0	施設内看取り	1 年 0 ヶ月 21 日
男	92	老衰	※ 7月8日	0	施設内看取り	0 年 8 ヶ月 25 日
男	89	老衰	※ 7月19日	0	施設内看取り	0 年 2 ヶ月 2 日
女	84	老衰	※ 7月24日	0	施設内看取り	1 年 4 ヶ月 22 日
女	90	老衰	※ 7月26日	0	施設内看取り	4 年 6 ヶ月 10 日
男	77	老衰	※ 8月15日	0	施設内看取り	1 年 4 ヶ月 2 日
女	94	老衰	※ 8月28日	0	施設内看取り	6 年 3 ヶ月 12 日
女	88	中枢神経原発悪性リンパ腫	9月9日 ～ 10月16日	38	市立病院脳外→転院 死亡退所	5 年 2 ヶ月 16 日
女	92	老衰	9月12日 ～ 9月12日	1	死亡退所	0 年 0 ヶ月 24 日
女	98	摂食不良	9月30日 ～ 11月15日	47	経口摂取不可にて退所	1 年 5 ヶ月 10 日
男	93	胆のう炎	10月3日 ～ 1月30日	120	退院の目途つかず退所	2 年 10 ヶ月 7 日
女	100	肺炎	10月8日 ～ 10月13日	6	死亡退所	4 年 7 ヶ月 25 日
女	90	大腸がん	※ 10月18日	0	救外で死亡確認	0 年 10 ヶ月 26 日
男	96	右下腿蜂窩織炎	11月15日 ～ 12月2日	18		
女	91	老衰	※ 11月23日	0	CPAにて救急搬送、死亡退所	0 年 0 ヶ月 17 日
女	95	食欲低下	12月9日 ～ 12月15日	7	死亡退所	9 年 8 ヶ月 14 日
男	81	発熱・食欲低下	12月10日 ～ 1月8日	30	転院、退所	1 年 4 ヶ月 15 日
女	93	老衰	12月22日 ～ 12月24日	3	死亡退所	3 年 8 ヶ月 9 日
男	91	呼吸不全	12月24日 ～ 1月2日	10	死亡退所	2 年 3 ヶ月 4 日
女	90	高次機能障害	1月11日 ～ 2月13日	34	死亡退所	2 年 3 ヶ月 27 日
女	97	老衰（看取り入院）	1月20日 ～ 1月27日	8	死亡退所	12 年 7 ヶ月 30 日
男	89	老衰（看取り入院）	3月11日 ～ 3月14日	4	入院時コロナ 死亡退所	2 年 3 ヶ月 12 日
男	95	左足蜂窩織炎	3月17日 ～ 3月31日	15	入院中	
女	99	胆石	3月17日 ～ 3月31日	15	入院中	

(6) まとめ

・ 今年度の新型コロナウイルス感染症の発生は22名で、感染をきっかけに体調が戻らず1ヵ月以内に亡くなったのは3名だった（表1）。令和5年度は感染者が6名で亡くなったのは3名（50%）だった。感染者が激減した昨年に比べると今年度は感染者数は増加しているが、重症化した人は少なく、感染をきっかけにした死亡者数の割合は3年間で一番少ない。感染時期は4月末～5月初に13名、10月に2名、2月末～3月初めに6名で（表2）、発生期間が長引くことはなかった。コロナ感染者が発生する

と、スタッフは速やかに感染対策マニュアルに沿ってそれぞれの動きをとる事が出来ている。これは今までの経験が生きているという事である。今年度から感染 BCP の策定・訓練の実施が義務化され、当施設でも研修会が実施されている。これを機に感染対策の意識がさらに高まり、対策の強化が継続されていくことを期待したい。

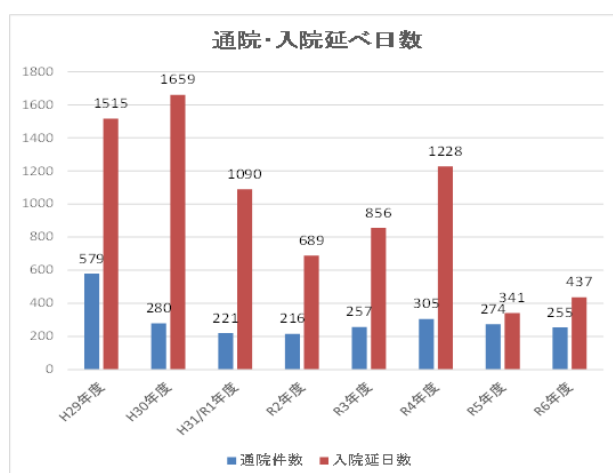
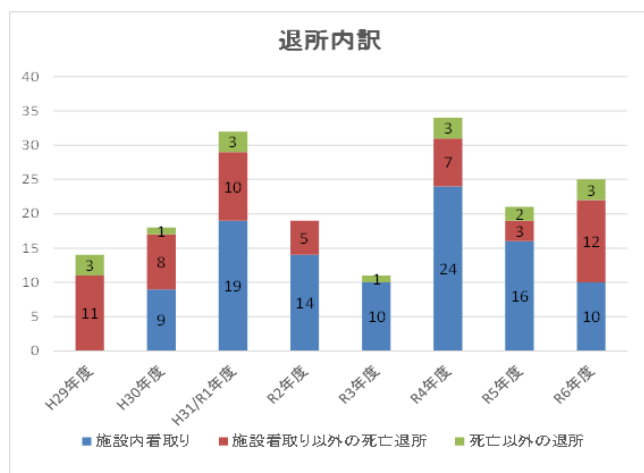
- 施設内看取りに関しては、死亡退所 25 名中 10 名が施設内看取りであった（図 1）。死亡以外の退所の内訳は、経口摂取できず退院の目的が立たないため 3 名であった。今年度は協力病院の体制の関係で 10 月から施設内看取りができない状況であった。9 月までの半年間でみると死亡退所 12 名中 10 名が施設内看取りであった。施設内看取りが出来なくなつてからは、経口摂取が出来なくなり体重減少が著明で ADL も明らかに低下した時点で病院受診し看取り入院となっていた。しかし癌末期で施設内で呼吸停止してしまった利用者が、救急搬送を余儀なくされたことがあった。かかりつけである協力病院が救急車の受け入れができなかったため、他院へ搬送され Ai（死亡時画像診断）を受けなければならないケースがあった。入所時から施設内看取りで穏やかな最期を希望していたご家族であったが、その思いとは裏腹にあわただしい最後となってしまった。
- 来年度から協力病院が変わり、施設内看取りが再開されるが、協力病院との連携を密にし、ご利用者、ご家族の思いに寄り添った看取りができるよう体制を整える必要がある。
- 通院件数については昨年度よりやや少ない。内科受診件数が昨年度が 136 件に対し今年度は 99 件と減っているが、皮膚科が昨年度 10 件に対し今年度は 26 件で 2 倍になっている。これは皮膚科に定期受診する利用者が入所されたためである。
- ここ数年受診件数は少なめで安定している（図 2）。受診は必要なものであるが、利用者への時間的・体力的負担は大きいと、受診のタイミングの判断も大切である。平時から利用者の観察を密に行い引き続き体調管理に注力していきたい。
- 入院延べ日数は、今年度後半の看取り入院の分が増加したものと思われる。R4 年度はコロナ感染症による入院が増加したが、R5 年度からは大幅に減少している（図 2）。
- 昨年から引き続き医務の目標である「ご利用者の健康と安全を維持するため、異常の早期発見・早期対応に努める」は概ねできていると思われる。入所判定会議で各職種で情報を共有したり、事前に問題点の対応策を検討できることもおおいに役立っている。来年度は協力病院変更に伴い当初は戸惑うことがあると思うが、各職種と連携し医務の役割を果たしていきたい。

新型コロナウイルス感染状況（表 1）

	R4年度	R5年度	R6年度
感染者数	45	6	22
死亡者数	11(24%)	3(50%)	3(14%)

新型コロナウイルス感染症の発生時期（表 2）

R6年度	4月～5月	10月	2月～3月
感染者数	13	2	7



《食事》

〈栄養量の状況〉

種別	熱量 kcal	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	VA(レチノール当量) μg	ビタミンB ₁ mg	ビタミンB ₂ mg	ビタミンC mg	食物繊維 g	食塩 g
4月	1,665	61.9	50.0	765	8.1	1046	1.44	1.26	105	22.2	7.6
5月	1,667	61.5	49.5	752	7.8	752	1.45	1.29	99	22.6	7.6
6月	1,621	60.5	46.7	750	7.6	1007	1.41	1.23	89	21.7	7.5
7月	1,624	60.7	47.1	733	7.9	843	1.38	1.21	87	21.5	7.4
8月	1,647	59.8	48.7	716	7.6	947	1.43	1.23	88	22.0	7.5
9月	1,616	59.7	46.4	731	7.0	906	1.36	1.20	83	17.1	7.5
10月	1,614	59.5	48.0	727	7.0	947	1.37	1.20	81	16.4	7.5
11月	1,612	59.2	47.8	741	7.2	865	1.34	1.18	69	15.3	4.7
12月	1,618	58.9	47.2	724	7.6	869	1.34	1.17	73	19.7	7.4
1月	1,659	61.5	49.2	754	7.8	914	1.41	1.24	86	22.4	7.4
2月	1,640	61.3	48.8	763	8.1	943	1.47	1.47	91	21.8	7.5
3月	1,645	62.0	48.9	749	7.7	916	1.40	1.23	94	21.7	7.4
平均給与量	1,636	60.5	48.2	742	7.6	913	1.40	1.24	87	20.4	7.3
給与目標量	1,513	52.3	33.6~41	622	6.1	677	1.00	1.10	100	18.00	6.7

〈行事食〉

	行事食	Oen dish	東北麺紀行	デイサービスお誕生会
4月	みんなの日曜日(ココ壱番屋特製コロッケカレー、温野菜サラダ)	鶏のねぎ塩レモン丼	かき揚げ稲庭風うどん	日替わりケーキ
5月	子供の日(桜ご飯、チキンカツ、菜の花の和え物、お茶プリン) 母の日(フライ盛り合わせ、かぶのポトフ、抹茶ムース)	キーマカレー丼	横手焼きそば	
6月		唐揚げサラダ丼	わかめラーメン	
7月	七夕(ぶっかけ卵めん、星型ハンバーグ、七夕ゼリー) 土用丑の日(うなぎちらし、茶わん蒸し、抹茶水ようかん)	十和田バラ焼き丼	ぶっかけ卵めん	
8月	お盆(赤飯、煮しめ、茶碗蒸し、抹茶プリン)	牛肉サラダ丼	盛岡冷麺	
9月	お月見(月見稲庭風うどん、しゅうまい、お月見ゼリー) 敬老の日(きのこ炊き込みご飯、金目鯛の煮付け、酢味噌和え、抹茶プリン) 敬老会(赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶碗蒸し、水まんじゅう) みんなの日曜日(たいめいけんシーフードグラタン、ほうれん草炒め物、青りんごゼリー)	チャーシュー丼	月見稲庭風うどん	
10月	みんなの日曜日(吉野家特製親子丼、青菜と大豆の白和え、ヨーグルトゼリー) ハロウィーン(海老ピラフ、かぼちゃとチーズの包み揚げ、かぼちゃプリン)	牛肉と枝豆の混ぜご飯	みそカレー牛乳ラーメン	
11月		とろとろ八宝菜丼	盛岡温麺(塩)	
12月	冬至(たらのトマトソースがけ、かぼちゃのいとこ煮、パイン缶) クリスマス(チキンライス、星のハンバーグ、クリスマスデザート) 年越し膳(赤飯、煮しめ、茶碗蒸し、和菓子)	ベッパパー風ライス	きつね風卵めん	
1月	お正月(刺身、数の子、紅白なます) みんなの日曜日(吉野家特製牛丼、青菜と大豆の白和え、デザート)	ルーロー飯丼	盛岡温麺	
2月	みんなの日曜日(吉野家特製親子丼、青菜と大豆の白和え、ヤクルト) 節分(ちらし寿司、鶏肉と大豆のやわらか煮、きなこプリン) バレンタイン(ハート型ハンバーグ、人参サラダ、ハート型チョコプリン)	ケバブ風丼	みぞれ風卵めん	
3月	ひな祭り(ちらし寿司、菜の花と油揚げの煮びたし、桜ゼリー)	甘酢唐揚げ丼	黒石つゆ焼きそば	

- ・ 今年度も委託先と連絡調整を随時行い、法人の意向を献立に反映できた。味は利用者から好評だったが、食べやすさや見た目に関しては問題点があがったため、来年度改善できるよう努めていく。
- ・ ミールラウンドを週 3 回以上実施し、利用者個々に見合った栄養ケア計画書の作成と食事の提供ができた。
- ・ 作業療法士が入職したことで一体的計画書の作成や多職種でのミールラウンドが充実したものとなり、摂食嚥下の評価や姿勢、食具、介助方法等食事時の環境が前年度よりも改善できた。
- ・ 低栄養状態のリスク者に大きな変化は無く、低リスク者の増加には至らなかった。
- ・ 感染症の発生で日程調整ができず、バーベキューやセレクト食、ホールでの実演は今年度もできなかった。
- ・ 定期的に行うとしていた嗜好調査は実施せず、ご利用者様の要望や意見は都度聞き取りで行った。

美土里莊

短期入所生活介護事業所

(介護予防) 短期入所生活介護事業

① 月間利用者数と利用率

令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

		要支援1		要支援2		介護度1		介護度2		介護度3		介護度4		介護度5			
月	営業 日数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	延べ 日数	利用率
4月	30	0	0	0	0	5	28	54	136	56	119	25	60	5	0	488	125.1%
5月	31	0	0	0	0	0	23	38	152	58	119	22	62	7	0	481	119.4%
6月	30	0	0	0	0	0	7	38	142	83	106	14	90	6	2	488	125.1%
7月	31	0	0	0	0	0	7	60	132	49	136	7	93	4	0	488	121.1%
8月	31	0	0	0	0	4	7	71	126	31	106	17	93	3	0	458	113.6%
9月	30	0	0	0	0	0	14	65	134	30	89	7	106	27	0	472	121.0%
10月	31	0	0	0	0	1	5	33	160	31	68	0	103	6	0	407	101.0%
11月	30	0	0	0	0	16	10	40	149	51	46	0	137	0	0	449	115.1%
12月	31	0	0	0	0	0	7	27	153	41	48	0	125	0	0	401	99.5%
1月	31	0	0	0	0	0	20	9	204	31	49	0	116	5	0	434	107.7%
2月	28	0	0	0	0	0	7	0	179	28	53	0	119	7	0	393	108.0%
3月	31	0	0	0	0	0	23	0	152	31	32	0	132	0	0	370	91.8%
計	365	0	0	0	0	26	158	435	1,819	520	971	92	1,236	70	2	5,329	112.4%

② 事業収入の過去 3 年比較

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業収入額(円)	58,704,440	62,237,850	60,206,939
前年比(%)	107.7%	106.0%	96.7%

③ 利用者数の過去 3 年比較

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年間利用者数(人)	5,266	5,556	5,329
前年比(%)	104.5%	105.5%	95.9%

④ まとめと反省

- ・ 短期入所は収入額が昨年度比 96.7%、利用者数が同 95.9%となっており、おおむね令和 4 年度並みの利用者数となった。特養の稼働率が安定し空床期間が少なくなったためと考えられ、利用者数としては決して低くはない。
- ・ 一方で 12 月・3 月は 100%を下回っている。急遽の空床（入院や利用キャンセルなど）が多く、その補完がスムーズに行かなかったことが原因と考えられる。
- ・ 全ての月で利用率が 100%を越えており、特養の空床利用でのショートステイ活用が円滑に行えていたと言える。
- ・ 特に軽介護度の方（要介護 1～2 の方）で短期入所を長期利用希望する方が多く、長期利用希望者で定員がほぼ埋まっている状況が続いている。短期入所本来の利用をしたい方は空床利用となることが多く、日程の希望が合わず断るケースもあった。
- ・ 令和 6 年度は介護報酬改定があり、短期入所も基本単価が上昇したものの特養ほどではない。また加算も特養ほど多くはないため、従来通り「特養の空床を短期入所で埋める」という考え方では特養・短期入所を併せた収入額が頭打ち、もしくは減少する可能性が高い。来年度はショートステイの稼働率 100%を維持しつつ、特養の入所が迅速に行えるよう体制作りに努める必要がある。

美土里荘 デイサービスセンター梓

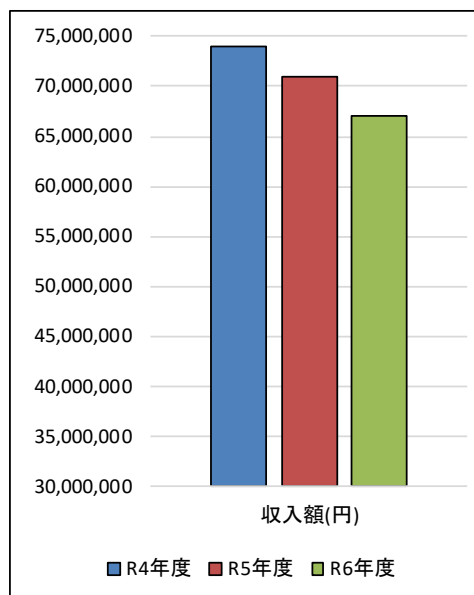
通所介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業 第1種通所事業

■ 経常活動収入の過去 3 年比較

① 活動収入の比較

	R4年度	R5年度	R6年度
収入額(円)	74,038,883	70,944,700	67,022,596
前年比(%)	96.1%	95.8%	94.5%

収入額は、3 年連続で前年比で減収となりました。主な要因は、利用登録者数に大きな変化はありませんが、減少傾向にはありますが、新型コロナウイルスの影響や不定期での短期入所利用や延長利用する方が増加傾向にあり、抜本的な対策ができない現状が続いています。

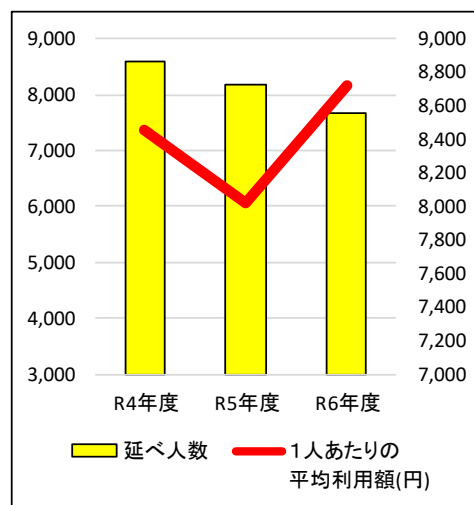


■ 利用者数の過去 3 年比較

① 年間延べ利用者数と利用者 1 人あたりの収入額の比較

	R4年度	R5年度	R6年度
延べ人数	8,577	8,174	7,681
1 人あたりの平均利用額(円)	8,459	8,021	8,726

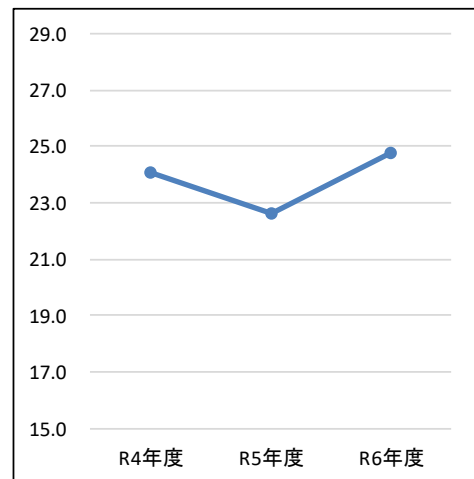
延べ利用者数は昨年度比で減少しています。主な要因は上記と同様です。延べ利用者数は減少しましたが、加算算定率の向上などにより、利用者一人あたりの利用額は増加となっています。



② 年間ベースでみた 1 日あたりの平均利用者数

	R4年度	R5年度	R6年度
1 日平均(人)	24.1	22.6	24.8
利用率(%)	80.3%	75.3%	82.7%

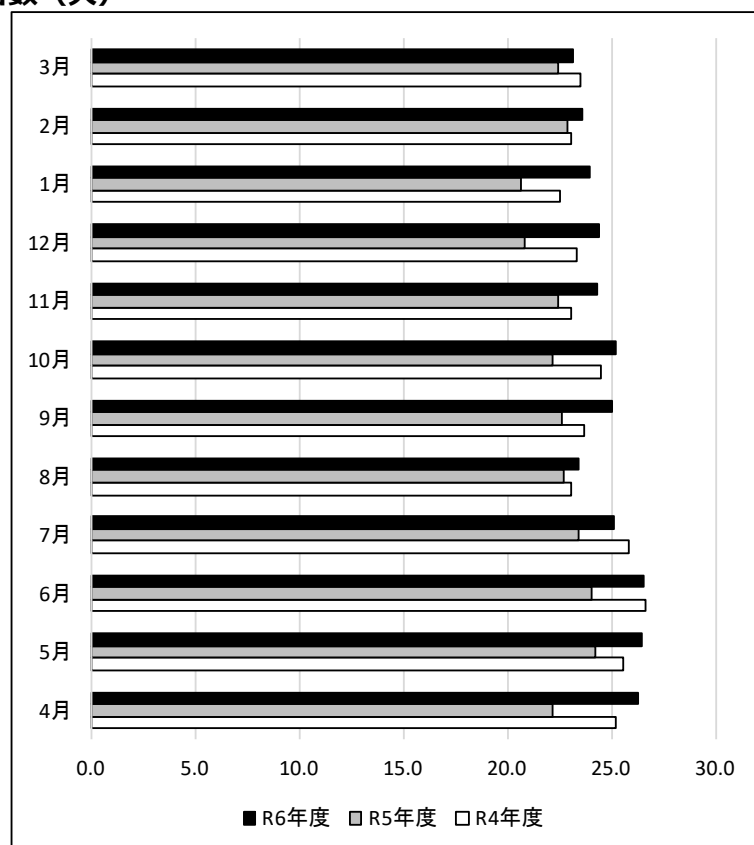
1 日の平均利用者は 24.8 人と、昨年度より増加していますが、年度途中で週 6 日営業にした影響も多少あります。一つの目標である実績利用率 80% は超えることができました。



③ 月間ペースで見た1日あたりの平均利用者数（人）

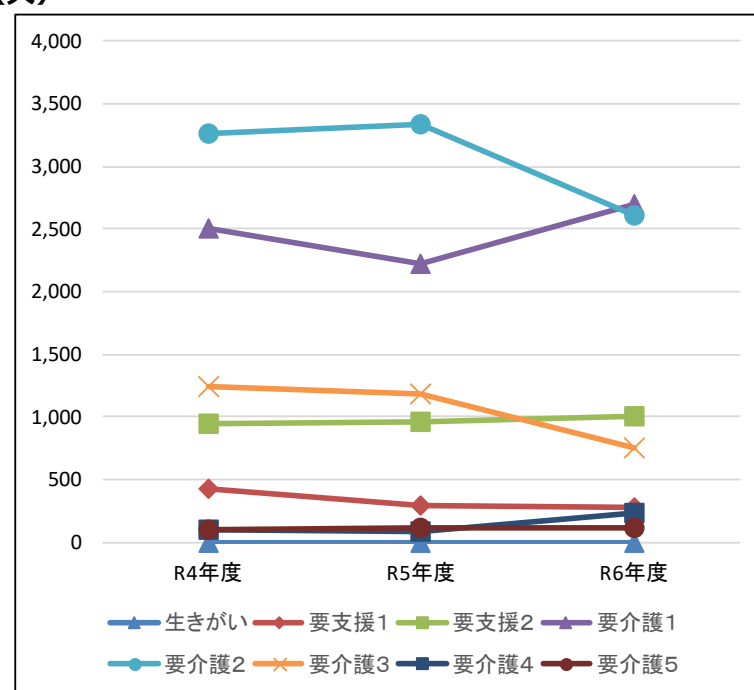
	R4年度	R5年度	R6年度
4月	25.2	22.1	26.3
5月	25.5	24.2	26.4
6月	26.6	24.0	26.5
7月	25.8	23.4	25.1
8月	23.0	22.7	23.4
9月	23.7	22.6	25.0
10月	24.5	22.1	25.2
11月	23.0	22.4	24.3
12月	23.3	20.8	24.4
1月	22.5	20.6	23.9
2月	23.0	22.9	23.6
3月	23.5	22.4	23.1

職員不足や離職者の続出により、令和6年7月から日曜定休の6日営業になりました。多様化する働き方が時代の流れを感じます。昨年と比較し、一時的に延べ利用者数は減りましたが、平均利用者数は増加傾向にあります。



④ 要介護度別で見た延べ利用者数の比較（人）

	R4年度	R5年度	R6年度
生きがい	0	0	0
要支援1	422	286	269
要支援2	941	953	1,009
要介護1	2,506	2,219	2,693
要介護2	3,263	3,336	2,612
要介護3	1,239	1,184	753
要介護4	102	83	239
要介護5	104	113	106
合計	8,577	8,174	7,681



例年、要介護2の利用者が最も多く、次いで要介護1の利用者と続きますが、今年度は要介護1の利用者数が最も多く、次いで要介護2と逆転しました。要介護2～3の利用者が減少傾向にあります。これは、サービス資源の選択肢が増え、重度の状態になるほど短期入所利用や施設入所に移行または併用する利用者が増えてきていることが要因です。

■ 行事報告

実施月	行事名	参加者数	実施日
4・5月	桜を観る会	122名	4/11（日）～4/17（土）
	外部との接触を断つために車両から降りないドライブ形式でしたが、1年ぶりの外出気分と満開の桜を見て、参加利用者も喜ばれていました。		
	天王つつじ見学	中止	
	新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
6月	NAMIKIジェラート外出	102名	6/11（日）～6/17（土）
	外部との接触を断つために車両から降りない形式でしたが、久しぶりに外食行事に参加された利用者も大変喜ばれていました。		
7月			
	熱中症予防対策や新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
8月			
	熱中症予防対策や新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
9月	しちのへ秋祭り見学	中止	
	新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
10月	美土里荘フェスティバル	中止	
	新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		

実施月	行事名	参加者数	実施日
10月			
	新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
11月	紅葉ドライブ	中止	
	新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
12月			
	インフルエンザ・新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
1月	新年会	中止	
	インフルエンザ・新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		
2月	お話し会	全員	2月10日～2月15日
	サービスの質の向上を目的とし、利用者全員と面談し、嗜好調査やサービス利用に関する意見や疑問などに答える機会を設けています。		
3月			
	インフルエンザ・新型コロナ感染症対策のため、活動自粛しています。		

■ アクティビティ活動報告

No.	アクティビティ名	概要
1	塗り絵	様々な絵に思い思いの色を集中して塗ることで脳の活性化や認知症予防を図る
2	計算問題	利用者に合ったレベルの計算問題を提供し脳の活性化や認知症予防を図る
3	創作活動	キットを使った創作や、季節の装飾、レク用品などを利用者と職員共同で作る
4	パズル	利用者のレベルに合せたパズルを行い、集中力と脳の活性化を図る
5	マッサージ	イス型のマッサージ器を使用し、適度な刺激とリラックス効果を図る
6	ステップマシン	自転車の要領でステップを踏むように上下肢を同時に動かし、上下肢の屈伸運動を行う
7	散歩	デイ内外を歩行し運動することで、心身の活性化と歩行の安定化を図る
8	介護予防体操	参加可能な利用者全員で、身体を動かす体操を行う
9	発声練習・音読・歌	口腔機能の維持・向上を目的に、歌を歌ったり、音読や発声練習を行う
10	カラオケ機器の活用	カラオケ機器を使用し、カラオケのほか介護予防体操などのプログラムを実施
11	その他の訓練	日常生活動作訓練を行う(生活リハビリ)

■ 個別機能訓練

機能訓練指導員（看護職員）がついて助言・指導しながら、利用者ごとの目標に応じた機能訓練を行う。

No.	訓練名	概要
1	下肢筋力訓練	歩行能力の維持・向上を目的とした訓練を行う。ステップマシン運動、歩行訓練、立ち上がり訓練、段差訓練、体幹ストレッチなど。
2	上肢筋力訓練	滑車訓練・腕力強化訓練・握力強化訓練・体幹ストレッチなど。
3	日常生活機能訓練	手指運動・尿失禁予防体操など。
4	認知機能訓練	目的別に認知機能の向上のための訓練を行う。数字合わせ・文字合わせ・パズル・豆つまみゲームを使用した訓練など。

■ まとめ

安定した利用実績と収入確保のため、できる範囲内の調整等を行ってきましたが、3年連続の減収となってしまいました。利用者や介護者の都合により、予定通りの利用延べ人数に繋がらない傾向にあるため、今後は利用者負担も考慮しながら一人当たりの利用単価をあげることに重点を置くことも考えています。また、年々職員の業務負担増が課題となっており、段階的な業務改善にも焦点を置かなければと感じています。利用者・介護者だけではなく、労働者側からも選択してもらえる事業所作りが重要と感じています。

美土里会 在宅介護支援センター櫟

在宅介護支援センター
居宅介護支援事業

《居宅介護支援事業所》

◎利用者数年間推移(令和4年度～令和6年度)

(単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
令和4年	91	89	95	92	90	93	85	88	81	85	75	82	1,046	87.1
令和5年	76	77	76	80	76	78	68	73	80	78	73	77	912	76
令和6年	74	70	72	74	73	77	80	79	79	83	82	80	923	76.9
新規利用	0	1	0	2	1	5	2	3	6	3	2	4	29	
終了	4	1	1	0	1	2	1	3	1	2	1	4	21	
施設入所	1	0	0	0	1	1	0	3	1	0	1	0	8	
死亡	3	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	4	12	
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

□令和6年度より、介護支援専門員一人当たりが担当できる利用者数が44人。45人以上は減算になる。

◎利用者要介護度別内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	19	19	21	21	21	23	25	27	30	32	25	30	297
要介護2	31	27	26	26	24	25	29	24	25	25	29	23	310
要介護3	11	11	10	10	10	8	7	6	5	8	9	8	103
要介護4	7	7	8	8	9	12	10	11	10	10	12	10	114
要介護5	6	6	7	9	9	9	9	11	9	8	7	9	99
合計	74	70	72	74	73	77	80	79	79	83	82	80	923

内訳 男性 人:女性 人

◎事業収入の過去3年比較

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入額(円)	13,797,940	12,570,540	12,930,110

●居宅サービス

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問介護	0	1	0	1	1	0	0	0	1	3	0	5	12
訪問入浴	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
訪問看護	0	1	0	1	2	2	1	0	1	1	1	0	10
通所介護	0	1	0	1	1	3	1	1	1	2	1	1	13
通所リハビリ	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
短期入所	1	0	0	0	1	1	2	2	1	3	0	1	12
訪問リハビリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	0	0	1	0	1	4	1	0	4	2	1	1	15

●施設サービス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
老人福祉施設入所	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	1	5
老人保健施設入所	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
グループホーム入居	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
生活支援ハウス入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有料老人ホーム・サ高住入居	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3

●申請代行

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
福祉用具購入費支給申請	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	4
住宅改修費支給申請	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
介護負担限度額認定申請	0	0	1	1	5	0	0	0	0	0	0	1	8
要介護認定新規申請	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	1	7
要介護認定更新申請	4	3	2	3	1	3	1	1	3	2	1	2	26
認定区分変更申請	0	1	1	0	3	1	0	2	0	1	1	4	14
居宅サービス計画作成依頼書	2	1	1	1	3	2	4	4	3	4	3	6	34
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

【反省・まとめ】

- ・ 年度途中から新規利用者が増えた。受け入れ制限人数にはまだ余裕があるが、ご利用者本人やご家族の性格が個性的なため支援が難しくなっており、支援体制に余裕がなくなっているのが現状である。
- ・ がん末期で、医療・介護が連携し自宅で看取りケアを行い家族に見守られながら息を引きとった方が数名いた。
- ・ 身体拘束を受け入れていない施設が増えてきており、希望する施設に入所できない事があり、施設探しが多くなっている。
- ・ 入院加療の過程でADLに大きな変化があり在宅復帰の支援に至らず、施設探しから施設入所で終了となるケースが多かった。

美土里莊

訪問介護事業所

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業 第1種訪問事業

《 利用者平均要介護度 》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	1.3	2	2	2	2	2	2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.2	1.6
女性	2.6	2.6	3	2.9	3.4	3.5	3.4	3.1	3.2	2.4	2.4	2.4	3
平均	2.4	2.5	2.9	2.8	3.3	3.4	3.3	2.8	2.8	2.2	2.1	2.2	2.8

利用者内訳は男性の利用者2名、女性11名となっております。平均介護度は2.8ですが
 昨年の平均介護度は3.0でした。

《 年齢構成 》

	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～94歳	95～99歳	平均年齢
男性	0	0	2	0	0	0	78.7
女性	0	2	1	1	6	1	87.3
合計	0	2	3	1	6	1	86.3

《 利用者数過去3年比較 》

・介護度別利用延べ利用者数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
要支援1・2	142	113	99
要介護1	666	222	6
要介護2	768	780	834
要介護3	772	84	16
要介護4	5	32	454
要介護5	8	759	194
合 計	2,361	1,990	1,602

令和4年度から3年間の比較をする延利用者数は減少傾向にあります。在宅で生活する
 方の減少や、自宅での生活が困難となり、施設入所する方も多い傾向でした。例年同様、
 要介護2の方の利用が多くみられていますが、介護度が高い方の利用回数も多い傾向で
 した。

《 サービス区分別年間延べ訪問回数 》

介護給付

	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 1時間半未満	1時間半以上 2時間未満	合計
身体介護	655	312	2	0	969
身体生活	0	59	140	5	204
生活援助	3	273	46	0	322
通院乗降	8	0	0	0	8
合 計	666	644	188	5	1,503

- ・身体介護 利用者の身体に接触して行う介助（入浴・排泄・洗髪・清拭等）
- ・身体生活 身体介護と生活援助を組み合わせた援助
- ・生活援助 買い物・調理・掃除・洗濯等の援助
- ・通院乗降 ヘルパーの運転する車で、要介護者を通院などの必要な介助を行うこと

総合事業

	45分未満	45分以上 1時間未満	合計
生活援助	32	67	99

- ・要支援1・2の方を対象とし、週1～2回の買い物・掃除等の援助

《 事業収入の過去3年比較 》

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入額（円）	介護給付	8,808,060	7,388,180	5,739,440
	総合事業	625,100	465,930	388,560
	計	9,433,160	7,854,110	6,128,000

《 まとめ 》

令和6年度も思ったより新規利用者の確保が出来ず、利用となっても体調を崩し長期の入院や定期的なショートステイの利用で増収にはならず、収入面も減少しています。利用者の中には、以前利用された家族からの紹介もあり訪問することになった事例や、他機関からの紹介では、難しい病気を抱えながら在宅で過ごしている方の援助をスタッフ間の報連相を密にして対応できました。学ぶことも多くあり利用者や家族に支えられてきたことを身をもって感じる事ができたと思います。

また、事業継続については人手不足や経営状態も不安定なため令和7年3月末を持って事業を休業することになりました。

美土里莊
グループホーム櫟

◆グループホーム櫟事業収入の過去3年比較

収入額	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	74,009,944 円	76,737,560 円	76,400,816 円

◆入退居者状況（入居定員1ユニット9名×2 定員18名）

入退居月日	男	女	備考
4月16日	0	1	死亡（老衰）
4月21日	0	1	入居
R7.1月26日	0	1	退居 特養入所
2月 3日	0	1	入居
3月 2日	0	1	退居 特養入所
3月11日	0	1	入居
※女性3名退居・3名入居 ※3月31日現在定員18名（女性18名）			

◆年齢 最年少・・・80歳 最高齢・・・99歳

※平均年齢90.6歳

●令和7年3月31日現在

年齢	男性	女性
～79歳以下	0	0
80歳以上～84歳以下	0	3
85歳以上～89歳以下	0	4
90歳以上～94歳以下	0	6
95歳以上～99歳以下	0	5
100歳以上～104歳以下	0	0

◆要介護認定状況

	男	女
要介護 1	0	3
要介護 2	0	8
要介護 3	0	4
要介護 4	0	1
要介護 5	0	2
計	0	18
※ 平均介護度 2.5		

◆通院状況

☆通院状況

令和6年度

1南町ユニット

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
七病内科	2	3	3	2	1	4	2	2	4	3	2	3	31
七病外科	1	1		1			1		1				5
七病眼科	1	1				1		1			1		5
七病発熱外来							2			4			6
七病救急外来					1								1
高松病院	1		1	2	2	2	2	3	2	2	2	2	21
十和田中央脳外科								1	1				2
十和田中央泌尿器科								2					2
十和田東クリニック										2	1		3
十和田泌尿器科							1						1
七戸内科クリニック									1				1
工藤医院	1	2	2		1		2			1	1	2	12
藤原内科								1					1
小川歯科				4	1	2	2		3	2	3		17
計	6	7	6	9	6	9	12	10	12	14	10	7	108

2北町ユニット

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
七病内科	4	3	1	5		3	5		3	8	2	4	38
七病外科			1			1			1			1	4
七病整形										2			2
七病眼科	1		1	1		1	2		2	2			10
七病救外	1								2				3
七病発熱外来	5			1	5								11
高松病院	1	1	1	1		1		1	1	1	1	1	10
工藤医院										1			0
十和田東クリニック		3				2				3	1		9
十和田中央救外							1						1
大山皮膚科						1			2				3
小川歯科	2		2			3			2				9
計	14	7	6	8	5	12	8	1	13	17	4	6	101

◆入院状況

性 別	入院期間	病 名
女（87歳）	12/9～12/13（4日間）	転倒による手首骨折手術

◆アクシデント

※内容

- 転倒 17 件（居室、廊下、トイレ内にて）
- 転落 1 件（病院駐車場にて車椅子が道路溝にはまり前へ転落）
- ヒヤリハット 3 件（歩行器未使用で歩行、車シートベルトを外し自ら降りようとしていた）

◆感染症

〈新型コロナウイルス感染〉

○7/30～8/17 利用者 8 名、職員 2 名感染

症状～発熱、のどの痛み 重傷者無。

〈インフルエンザウイルス感染〉

○ 4/3～4/14 利用者 4 名、職員 2 名感染

○R7. 1/26～2/8 利用者 5 名、職員 3 名感染

《医療係反省》

○新型コロナウイルス感染が真夏に発症したが幸い、北町の利用者、職員が感染し南町への感染拡大は防げた。重症者もなく、発熱、喉の痛みの症状であった。

引き続き感染対策は徹底して行きたい

○入院者も 1 名のみで転倒による骨折の手術の為の入院であった。

日々の健康観察で早期発見対応繋げていきたい。

◆活動内容

＜レクリエーション・創作＞

【南町】ユニット

（単位：人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実施回数	35	65	53	67	42	45	52	61	59	49	49	63	640
延べ人数	74	97	93	90	62	95	93	120	136	113	106	132	1211

〈内容〉散歩、チラシ分け、カルタとり、パズル、計算ドリル、みずの皮むき、ぬり絵、裁縫、北町との合同レク、風船バレー

【北町】ユニット

（単位：人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
実施回数	49	41	36	33	16	22	22	30	28	0	0	0	293
延べ人数	58	74	65	57	29	32	30	37	37	0	0	0	470

〈内容〉散歩、紙ちぎり、チラシ分け、計算ドリル、カルタとり、パズル、裁縫折り紙、みずの皮むき、箱作、南町との合同レク

◆行 事◆

日 付	内 容	参加人数
4 月 16 日南町	桜鑑賞ドライブ 十和田市官庁街、稲生川通りの桜を鑑賞	9 人
4 月 19 日北町	桜鑑賞ドライブ 十和田市官庁街、稲生川通り 16 日、19 日昼食はイオン七戸から握りずしを購入し施設内で食べる	8 人
5 月 8 日南・北	ツツジ鑑賞ドライブ 天王神社、ツツジロード、ソガ森等	18 人
7 月 19 日北町	十和田市鯉艸郷見物 紫陽花、花菖蒲等観賞	2 人
9 月 25 日南・北	敬老会 （お楽しみ会） 内容：デザート作り、花束及びプレゼント贈呈 食事：お寿司・天ぷら等カケモより購入	全員
10 月 2 日南・北	ぶどう狩り 南部町 なかよしファームにて	5 名
10 月 29 日南・北	紅葉狩りドライブ 十和田市高森山～七戸町奥羽牧場、家族旅行村 昼食はカケモよりお寿司をとり施設で食べる	17 人
12 月 16 日	忘年会 レクリエーション（風船バレー、魚釣り） イオン七戸よりオードブル、みやきんよりケーキ等購入	18 人
その他	野外バーベキュー6 月、9 月実施	全員

◆運営推進会議

※新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの発症があり第1回、第2回、第6回の会議は開催しなかった。開催予定の奇数月には会議参加委員に櫟日より、その他資料を配布した。第3回、4回、5回は開催出来た。(4年ぶりの開催)

《実施内容》

- ・ 開催日時：奇数月 15：00～16：00（年6回開催）
- ・ 構成メンバー：町職員2名含め他6名参加

実施予定日	内 容
5月21日	第1回 令和6年度事業計画 他「ハラスメント」活動報告
7月25日	第2回 令和5年度事業報告 活動報告
9月24日	第3回 「新型コロナウイルス感染症振り返り」 活動報告
11月22日	第4回 「法人委員会・年間勉強会説明」 活動報告
1月22日	第5回 「令和6年度外部評価」 活動報告
3月25日	第6回 「令和7年度事業計画」 活動報告

◆グループホームまとめ

- ・ 令和5年5月8日よりコロナ感染症5類移行となったが令和6年度もコロナウイルス、インフルエンザ感染が発症し対応の苦慮した時期もあったが、花見ドライブ果物狩り、その他ドライブ等少人数であるが実施できた。
- ・ 余暇時間では各ユニットで縫物や掲示物の創作活動を行った。他軽体操や風船バレー等を取り入れ利用者の皆様には喜んでもらえた。
- ・ 入居・退居の入れ替わりは3名、入院者も1名の方のみであった。大きな空床はなかった。全体的に徐々に身体機能低下の利用者が増えて来ている。転倒事故も多かった。
- ・ 感染症も緩和してきて家族との面会も玄関ホールで対面出き、また福祉有償サービスにて家族との関りが増えた事で利用者、家族は喜んでいた。
- ・ 他外出（果物狩り等）も天候に左右されたときもあったが外出の機会は徐々に増えて来た。来年度は引き続き感染対策を徹底しながら戸外散歩や、外食ドライブ等を増やして行き、少しでも楽しい生活を送ってもらえるよう支援していきたい。